

1935年度火星観測 (2)

木 邊 成 麿

扱て観測であるが、基本的なスケッチとして選んだのは、出来るだけ火星全表面に行き廻り 0° より 30° 毎に取り、seeing は勿論良好なものを選び、4. のあるものは殆んど除外した。(相當よく描けて居ても) 小數観測者は一纏めにしてその中から代表的に拾ひ上げたので結局 6 組のものになつたのである。選出のスケッチは 4, 5, 6 月各 21, 37, 二枚であつて 5 月が多い。これは前に云つた seeing の關係で、最良のものを選んでも 4 月平均 seeing 6.6 に對し、5 月は 7.0 である事からして、全體としては餘程よい事になる。紙面の都合上選出スケッチに付いて簡単に示すと、第五表の如くである。

第五表	伊 達	前 田	荒 木	渡 邊	其 他	木 邊
0°	No 17	104*	13	12	荏部 3	33
30°	—	105*	12	—	高井 5	32
60°	12	91	—	43	荏守 3	30
90°	—	96	10	45	荏部 5	27
120°	11	120	—	36	—	25
150°	9	84	9	33	—	23
180°	—	77	—	35	上本 2	17
210°	24	67*	19	28	荏守 2	16
240°	20	58	3	25	笹部 3	36
270°	—	52	—	—	佃 2	15
300°	18	49	17	14	沓掛 4	34
330°	16	50	—	10		11
参 考	15	74		7		24
	23	92	20	11	荏部 4	31
	21	94	14	27	福井 i	12
	25	Cooke*		45		18

大きな模様

アリン、サベウス、シルチス、ユートピア、ティーレーヌム、シレヌム、キメリウム、シメリウム、アンダリウム、マガリデファ——等の暗所、ヘラス、

テンペの白い事は殆んど見逃さずアシダリウム、シルチス、ユートピアの三ヶ所が最も濃く描かれて居る。變つて見えたのはアシダリウムが非常に大きく、恰も北端に切れ目の如く見えた事、エリシウムが目立たなかつた事、及アリンの爪が不明であつた事で、後二つは1933年の接近時と似て居る。扱て最も問題になるのは Canal であつた、果して我々のグループで如何程見られるかは接近前には可なり興味を引いたが結果は意外に多かつた事である。然しどの程度まで正確であるかは他の観測發表と對比せねばならないが兎角總計107個に達した、右の内 $\frac{1}{3}$ 位は観測者自身不確と認定して居るものであるから約70個と云ふのが正確な所か?と思はれる。次表は各個の數を確なもの

第六表 運 河

	確 實	不確實	總 計
伊 達	17	7	24
沓 掛	2	—	2
前 田	54	12	66
荏部進	4	10	14
荏部守子	6	4	10
西 川	不明		—
荒 木	43	14	57
渡 邊	28	10	38
木 邊	38	25	63
高 井	7	8	15
笹 部	7	5	12
個	3	—	3
川 村	位置不明		—
小 林	5	3	8
西 村	1	—	—
近 田	不明		
福 井		2	2
宮 崎	5	1	6
上 本	13	6	19
全 體	78	25	103

(二枚以上のスケッチにあるか、又は其他の事情により筆者が確かと断定せるもの) 及不確かなもの(seeing 不良等のため不確かと筆者が認めらるるもの)に分類すれば第六表の如くである。前田、荒木、木邊三氏がクリーンアップトリオとなつたのは口径、期間を考へると當然であるが、口径から云つて、前田、渡邊兩氏は賞讃に値する。確實と不確實の關係は観測枚數とスケッチの現れ方に左右されるが、スケッチが比較的少く、描寫をボツヤリ軟く書く方には不確實又は二個の合一と云ふ事が多く、一部は反射鏡の特色でもあるらしい。それはピツカリング主宰の場合にも認められるし、今回は荏部木邊兩氏はその傾向を認めた。次表に大體確かだと思はれた36個の運河表を掲げるがこれは三名以上のものが認めたもの

のみであるが中で或はプロトニルスは間違であつたかも知れないと思はれた。それは有名なニロシルチスが甚だ不明瞭であつた事で、これは運河の消

第七表 目立つた Canals

	伊 達	前 田	荒 木	渡 邊	木 邊	其他代表
1 オクサス I	No 17	No 104	No 13	No 12	No 33	—
2 ゲホン I	17	104	13	12	33	高 井 3
3 ニロケラス I	12	105	12	43	32	崔 守 3
4 エウロタス	9	120	10	45	27	上 本 2
5 ギガス	11	96	9	35	27	上 本 2
6 ハデス I	24	77	9	35	17	上 本 2
7 ギンデス	24	77	19	35	17	崔 守 2
8 アルシヨニウス	20	67	19	28	17	崔 守 2
9 カシウス	20	67	19	28	36	崔 部 3
10 オクサス II	17	104	13	—	33	高 井 3
11 アガソダエモン	—	91	12	43	30	崔 部 5
12 セラニウス	—	91	12	43	33	崔 守 3
13 ビリフレゲトン	9 ?	77	9	36	24	—
14 グラニクス	24	120	9	—	—	上 本 2
15 ハデス II	24	77	9	33	23?	上 本 2
16 ケルベルス I	24	77	19	35	17	笹 部 3
17 ケルベルス II	24	77	19	28	36	笹 部 3?
18 トリス	18?	67	19	25	16	笹 部 3?
19 ネベンテス	—	67	19	25	36	笹 部 3?
20 カドムス	18	38	14	12	11?	—
21 プロトニルス	—	104	17	12	33	—
22 デュイトロニルス	17	104	12	—	33	高 井 3
23 ヒデケル	17	104	13	12	33	高 井 3?
24 カリルホイエ	25?	104	13	—	33	—
25 ゲホン II	—	104	—	12	33	高 井 3?
26 タナイス	12?	105	13	—	33	崔 守 3?
27 ヒペルボレアス	25?	104	13	—	33	崔 部 5
28 ネクトル	—	91	—	36	30	—
29 クラリウス	12?	91	12	—	27	—
30 ノツクス	—	96	—	33?	27	—
31 ヒツベルス	—	84?	10	43	27	—
32 フレゲトン	—	91	10	36	27	笹 部 3?
33 ガンデイス	—	105	12	43?	32	—
34 オルクス	—	120?	9	35	17?	—
35 パクトルス	24?	67	19	—	17	—
36 ボレオシルチス	—	49	17	10?	15	—
確められた者	17	34	33	25	32	16

(スケッチの No. は最初氣付いた番號で現はしたから他にも出て居る事は勿論である.)

長と云ふ點では今季として特筆すべき事である。従つて、これに關係あるプロトニルスも？が付けられる。又エリシウムの目立なかつた事は前記の如くだが、必然それはエリシウムを區別する運河が目立たない事を意味するが表は大體0°度の邊から多く見られた順に並べた。二重運河に付いて一言すればローエルの如きものは全く認められなかつた、唯荒木氏の描いたものに幾分それに近いものがあるが、確實とは云へないものであつた。勿論ニロケラスやカシウスが太く大體並行に二本認めて居るスケツチもあるがこれは所謂問題となるべき性質のものではない。又ハデス、ギンデス、アルシヨニウム、カシウス、グラニクス等は寧ろ模様と云ふ位濃く太く、オリサス、ゲホン、タナイス、アガソダエモン、ネペンデスが比較的細く濃く、他は淡く大いものが多く掲載以外のものが淡く細いものが多い事になる。

次は湖と云はれるものであるが、運河以上に厄介である表には紙数の都合上出来ないが、著しかつたのは、プロボンテイス、エウキシヌス、ソリス等で其他數個は大抵の觀測者に見られて居り、總計10—20位と算定される。

以上が大體の結果報告である。筆者の淺學と淺い經驗のため結論を出す事が出来ないので殆んど單に數字表の羅列に終つてしまつた事を御許し願ひ度い。再び云へば今回は次期1937年への總掛りの豫行演習であつたと思へば満足な點が多くあつたと思はれる。今回觀測スケツチを送られた方に深大の謝意を表し、次季の活躍を期待しつつ稿を終る。(猶貴重な紙面を之れ以上費す事も出来ず、切りつめて書き過ぎた點もあるため、詳しい點は機會を見て報告者だけに發表する心積りです)

(花山で見える) 掩 蔽 豫 報 (昭和十年十二月)

星 名	光 級	潛 入 時 刻	位置角	出 現 時 刻	位置角	月 齡
16 Psc	5.6	日 時 分	°	日 時 分	°	日
66 Ari	6.1	8, 20:31.5	88	4, 17: 0.0	248	8.2
62 Tau	6.2	9, 17:33.1	111	8, 21:33.8	323	12.4
132 Tau	5.0	11, 5:54.6	350	9, 18:25.9	343	13.3
α ² Cnc	6.2	13, 23:33.8	184	— —: —	—	14.8
π Leo	4.9	15, 23:12.8	172	14, 0:54.3	325	17.5
κ Aqr	5.3	30, 20: 6.5	9	16, 0:22.3	349	19.5
κ Psc	4.9	31, 18:14.4	67	30, 21: 6.8	198	4.7
				31, 19:11.6	154	5.6